

津山郷土博物館だより「つはく」

津博

TSUHAKU

2019.5 No.100

歴代館長随想

津山郷土博物館の開館まで 湊 哲夫
「井筒」 佐野 綱由
文人と臺山と博物館と 尾島 治

トピックス

第117回文化財めぐり
耐震改修工事の進捗状況

「津博」論考一覧

お知らせ

資料閲覧の中止／新刊案内
令和元年度 行事予定



Tsuyama City Museum

津山郷土博物館

歴代館長の随想

「津博」百号記念企画①

津山郷土博物館の開館から約三十年、年号も平成から令和へと改まりましたが、博物館だより「津博」は今号で通算百号となりました。それを記念して、今回は特別編集を行い、二つの記念企画を組みました。

その一つは「歴代館長の随想」です。市教委の文化課長との兼任ではなくなつてから、館長として勤務された皆さんに、「津博」百号を迎えた今、思っていることや考えていることを、自由に書き綴っていただきました。

津山郷土博物館の開館まで

湊 哲夫

(任期…平成8年4月～18年12月)

津山郷土博物館設立の淵源は昭和四十六年の津山市博物館基本構想審議会発足に遡る。これは昭和二十六年開館の市立津山郷土館を母体として、本格的な歴史博物館

を創設しようとするものであった。

そのため翌年四月には筆者を含む学芸員二名が新規採用、同年九月には教育委員会に津山市郷土博物館設立準備事務局が設置、用地も津山文化センター北側と決定され、昭和五十年の開設にむけ本格的な準備がすすめられた。ところが、昭和四十八年十月のいわゆるオイルショックをうけ、博物館計画も頓挫を余儀なくされた。

博物館構想が再浮上したのは、津山市役所の現在地への移転に伴う跡地利用をめぐるのである。このときには、移転後の庁舎本館を博物館とする意見と記念館とする意見に大分されたが、結局、昭和五十七年津山市庁舎等跡地利用審議会は市政記念館と答申した。しかし、昭和五十八年の津山市市政記念館検討委員会の答申では津山郷土館を旧庁舎本館に移すこととし、事実上博物館計画が復活した。そして、昭和六十年から本館の改築工事に着手することとなった。かくして、博物館計画が進むこととなったが、その後の経過も順調とはいかなかった。その一つは、

建築工事と展示工事が分離され、

前者を市建設部、後者を教育委員会が所管したことである。しかも、先の答申をめぐる意見の相違を反映して、前者が市政記念館、後者が歴史博物館と造営の理念を大きく異にした。例えば、一階正面の大大理石階段である。これは大変立派なもので、記念館であれば何より尊重すべきであるが、勾配の問題など博物館としては持て余し気味のものである。次に、三階中央の展示室は、旧市議会議場の景観を保存したものであるが、天井が極端に高く、他の展示室と断絶するとともに、天井部の照明施設の管理にも難渋した。

今一つは、展示工事の大幅な遅延である。昭和六十年に着工した建築工事は昭和六十二年九月に完成し、その半年後の六十三年四月開館とするのが津山市の方針であった。ところが、常設展示の基本設計の着手が昭和六十一年十二月、完成が翌年三月と、開館予定約一年前であった。そこで、やむをえず実施設計を省略し、基本設計のみで展示工事に入ることと



津山城復元模型



知新館 (旧津山郷土館)

なった。津山城復元模型にいたっては、設計・施工の一括契約とせざるをえなかった。このような「突貫工事」により、かろうじて昭和六十三年四月二日の開館を迎えることができた。

以上のような紆余曲折を経て開設した津山郷土博物館であるが、右の経過からもわかるように、昭和四十六年以来の本格的な博物館構想実現までの暫定的なものとするのが筆者の理解である。とはいえ、開館以来三十余年、市内外の多くの方々の理解と協力により一定の成果をあげていることも事実である。今後とも、市民に密着した生涯学習の場として、また津山から全国への情報発信の場として、さらなる発展を期待するものである。

読者や市民の
皆さんのおかげで
100号まで発行
することが
できました。



博物館キャラクター
「鶴若」

「井筒」

(任期：平成19年1月～22年3月)

佐野綱由

津山郷土博物館の二階に古い井戸がある。中国自動車道の建設に伴う発掘調査で見つかったもので、あった場所は津山市総社すなわち美作国の国府のあったあたりである。

美作国は、和銅六年(七一三)備前国から分離して成立したとあるから、国府もその前後に建設されたものであろう。それから約一三〇〇年(！)になる。

昔、私が十九歳で、世間知らずの愚かなガキだったころ、大学の同じゼミに能の好きな男がいて、下宿も近かった。あるとき彼に誘われて神戸に能を見に行った。演目は「井筒」で、シテは梅若万三郎か観世栄夫だったと思う。生まれてはじめて見る能というものに私は深く感動した。

この「井筒」という曲は世阿弥の作で、私の見る限り世阿弥の最高傑作のひとつであろう。すなわち日本民族の生み出した世界に誇

る芸術作品の中の最高傑作のひとつでもある。

幼馴染だった男の子と女の子がやがて成人し、互いに愛し合い、契りを結ぶお話であるが、愛を確認し合う場所として井筒が登場する。

男「筒井つの井筒にかけしまろがたけすぎにけらしな妹見ざるまに」

女「くらべこしふりわけ髪も肩すぎぬ君ならずしてたれかあぐべき」

その男、日本史上大好きなイケメンとして超有名な在原業平であり、やがてほかの女に気を移し、かの幼馴染の女のことを忘れてしまったっていたが、女の方はいつまでも純真な気持ちを変わなかった。

時がたち、廃墟になった在原寺の井戸を訪れた旅の僧の前に女の亡霊があらわれ、愛の物語をして消える。また僧の夢の中に女が男の衣装で現れ、恋の情念を美しい舞いに舞い、男をしのぶ。

世阿弥は伊勢物語から題材を得ている。在原業平は八二五年生まれで八八〇年没であり、美作国の



美作国府跡出土の井戸の模造品

国府があった時代と重なる。能舞台の「井筒」はスキの茂る中であって、胸の高さとあるので、博物館の井戸とは大きさも違うのであるが、どちらも死霊が宿っていることは間違いない。

博物館の古井戸は樹脂でつくったレプリカである。「なーんだ、模造品か」そんなことを言うあなた、模造品に死霊が宿っているかないか、真夜中、一人で誰もいない津山郷土博物館の二階の古井戸を訪れて確かめてみるがいい。

文人と臺山と博物館と

尾島 治

(任期・平成22年4月～30年3月)

博物館を退職して一年が過ぎた。

このところ、縁あって、江戸後期に人気文人画家として京都で活躍した浦上春琴の資料を読んでいる。その過程で、江戸時代の文人や文人画について考える事が多いが、そうしたときに常に思い起こすのが、津山藩士廣瀬臺山である。臺山を深く知るようになったのは、博物館での臺山の特別展を担当したことが契機であった。幸い、豊かな資料と作品に恵まれて、文人画家とも評される臺山の作品と思想について、じっくりと考える事ができた。今更ながら、廣瀬臺山の思想が、興味深い。

「天下の遊民となりて。風雅を極んと思ふ類」が、武士の中にも存在する。このように、脱世俗を求める文人の生き様を理想とするような、当時の武士の風潮を感じ取った臺山は、強い憤りを感じていた。臺山にすれば、武士は藩主に抱えられて、禄が有ればこそ生

きていけるものなのに、仕事もしないで世捨て人になるのは言語道断なのである。

そして、彼独自の文武両道論を展開する。臺山にとって、文武はひとつである。よって、武士たる者は、文武兼備たること、これが、最終的には結論となる。その意とするところは、聖人の道が文であり、それが世に行われることが武である。すなわち、文武は一体のものであって、例えば学問と武芸とに分かれるようなものではない。戦乱の世にあつては、武力によって聖人の徳を広めて平和をもたらす、聖人の徳によって平和な時にあつては、大乱に備えて武力を保持する。いずれにしても、文を實現することが武なのである。そして、その文を身につけるためには、学問をしなければならぬ。そしてそれは、あくまでも「国家の用にたつべき実学をなすべき」ことが大切である。しかし、実社会においては、「無学文盲」の武士が巷に溢れている現実の中で、臺山は、文人とは対極ともいえるべき、武士のあるべき姿を唱えずにはい

られなかつたのである。

臺山が主張する世の中の役に立つ学問、すなわち実学という言葉は、現代にあつては、直接的に課題解決の役に立つ学問として、技術的・即物的に考えられがちであるが、実は、人間と社会への深い考察を伴うことよって、学問が、社会の進歩に貢献する学問であり続けることを意味していると理解したい。勿論、臺山は身分制社会である江戸時代の人間であり、自由や民主主義を唱えているわけではない。しかし、私たちは臺山の言葉から、今の私たちに必要な理念を読み取ることはできるはずである。

博物館には、何千年もの人々の営みが実物資料として保存され、研究を深めた上で展示公開されている。私たちがそこから何を汲み取り、何に活かしていくのか、それは、私たち自身の課題である。



臺山の著作『文武雅俗涇渭辨』(左)と『臺山隨筆』

第117回文化財めぐり

3月16日(土)に第117回文化財めぐりを開催しました。今回は、河辺公民館を起点に松風庵や河辺神社、国分寺跡など津山市河辺・国分寺地区を歩き地域の歴史に触れました。当日は天気にも恵まれ、参加者の皆さんは春のウォーキングを楽しんでいました。



耐震改修工事の進捗状況

4月初めに着工した当館の耐震改修工事は、地下と屋上で始まっていましたが、5月下旬からは、いよいよ3階の工事が始まり、補強のための鉄骨ブレースが取り付けられます。空間を分断するような鉄骨の入れ方はできる限り避け、もともと壁面だった箇所に施工する予定です。



「津博」百号記念企画②

博物館だより「津博」論考一覽

記念企画の二つめは、今までに掲載・発表してきた研究ノートや資料紹介などの論考一覽です。読者の皆さんの検索の役に立てば幸いです。

※バックナンバーは当館のホームページ上でPDFデータをダウンロードできます。→ <http://www.tsu-haku.jp>

研究ノート

- 4…安藤治 ふたつの狩野家
 6…湊哲夫 「真金吹く吉備」考
 7…尾島治 津山藩経済と銀札
 8…神尾斉 押淵村井堰差留めによる船路論争について
 9…神尾斉 津山城下の同心組
 10…湊哲夫 和氣氏と美作
 11…湊哲夫 美作国式内社高野神社の鎮座地をめぐって
 12…湊哲夫 「久米の佐良山」考
 13…尾島治 城下町の魚商い
 14…湊哲夫 杉坂峠か万能札か
 15…尾島治 津山松平藩の財政について
 16…湊哲夫 久米押領使漆間時国について
 17…湊哲夫 美作の国名について
 18…小島徹 文化・文政期の市郷境界論争
 —東新町・林田村間の城下境界線をめぐって—
 19…湊哲夫 二つの院庄—館跡と構城跡—
 20…小島徹 津山の東照宮に関する疑問—研究の端緒として—
 21…尾島治 絵師と山論
 22…湊哲夫 美作国作宮司について
- 23…小島徹 近世大名とその菩提寺
 —津山松平家と越後高田長恩寺の事例から—
 24…尾島治 津山藩の預地
 25…湊哲夫 美作国英多郡の鉄山について
 26…湊哲夫 津山中学校創設と大谷是空
 27…小島徹 元治〜慶応年間の鞍懸寅二郎—彼の書簡より—
 28…尾島治 津山城備中櫓について—城郭史研究における御殿と櫓—前編
 29…尾島治 津山城備中櫓について—城郭史研究における御殿と櫓—後編
 30…湊哲夫 美作国真島山について
 31…湊哲夫 粟井郷か栗井郷か
 32…乾康二 大谷家に残された衣類から見た大庄屋の位置付け
 33…尾島治 『美作孝民記』に見る近世の孝
 34…湊哲夫 渡来人と美作
 35…乾康二 遠藤家と道家大門の実父遠藤浦右衛門
 36…尾島治 『美作孝民記』の孝行観に見る女と妻
 37…湊哲夫 平安時代後期の美作国分寺
 38…乾康二 津山藩領と幕末
 39…尾島治 津山藩松平家お抱え絵師—狩野洞学—
 40…湊哲夫 池の内遺跡をめぐって
 41…乾康二 寛政四年津山城下町の様相—町奉行日記から—
 42…尾島治 歙形蕙斎筆「津山景観図屏風」について
 43…湊哲夫 美作国分寺の創建年代
 44…乾康二 町奉行の職務
 45…尾島治 池田利隆宛森忠政書状について
 46…湊哲夫 二つの院庄再論—館跡と構城跡—
 47…乾康二 「津山城下町町人地家割図」について
 48…尾島治 津山藩松平家お抱え絵師—狩野如林—
 49…湊哲夫 白猪屯倉について

資料紹介・館蔵資料から・クローズアップ館蔵品

(表紙掲載資料は何らかの解説文があるものに限定しました)

※津山市教育委員会所蔵のものは「市教委蔵」と略記。

- 1.. 將軍宣下に付津山藩主登城の図
- 2.. 津山産パレオパラドキシア骨格復元模型
- 3.. 棚田暁山「武將出陣図」
- 4.. 鉄形蕙斎「江戸一目図屏風」
- 5.. 陶質土器甕(市教委蔵)
- 6.. 土居妙見山古墳出土の内行花文鏡について
- 7.. 銅鐸(勝央町植月北出土・館蔵)
- 8.. 軒丸瓦(美作国府跡出土・市教委蔵)
- 9.. 津山城下町絵図(紙本彩色・嘉永7年)
- 10.. 鋸齒文鏡(津山市樋ノ池南遺跡出土・館蔵)
- 11.. 竹林七賢図屏風(部分)(6曲1隻・紙本着色・狩野洞学筆・館蔵)
- 12.. 出産届(文化8年・館蔵)
- 13.. 人物埴輪(津山市日上畝山古墳群出土・市教委蔵)
- 14.. 軒平瓦(美作国分尼寺跡出土・市教委蔵)
- 15.. 墨書土器「厨」(美作国府跡出土・市教委蔵)
- 16.. 津山藩江戸藩邸図(宝暦9年・館蔵)
- 17.. 美作国留守所下文(複製)(館蔵・原物仁和寺蔵)
- 18.. 後醍醐天皇繪旨(複製)(館蔵・原物和歌山県熊野速玉大社蔵)
- 19.. 津山藩主松平斉孝津山入国図(部分)(館蔵)
- 20.. 鑄造児島高德像(館蔵)
- 21.. 東照宮二百回忌祭礼図(部分)(文化11年・館蔵)
- 22.. 東一宮村山方東組西組絵図(館蔵)
- 23.. 墨書土器「少目」(美作国府跡出土・岡山県古代吉備文化財センター蔵)
- 24.. 高田城下町絵図(部分)(館蔵)
- 25.. 備中国絵図(館蔵)

54号からはA4判に、62号からは8頁組みに変更しました。



65号からは名称を「津博」に変更、70号から現行のロゴを使用しています。

- 25 .. 鉄地金（津山市狐塚遺跡25号住居址・7世紀頃、市教委蔵）
- 26 .. 鶴山館（旧修道館）（津山市山下 津山城跡内）
- 27 .. 鞍懸寅二郎顕彰碑・同肖像写真
- 28 .. 津山城本丸ノ図（個人蔵）
- 29 .. 御城御座敷御絵図面（個人蔵）
- 30 .. 木山神社本殿（真庭郡落合町木山）
- 31 .. 美作国絵図（部分）（文政元年頃・館蔵）
- 32 .. 直垂・直垂袴（個人蔵）
- 33 .. 美作孝民記（文政3年・館蔵）
- 34 .. 鉄鐸（津山市西吉田北1号墳出土・市教委蔵）
- 35 .. 道家大門肖像
- 36 .. 「真殿村三次郎妻国」挿図（『美作孝民記』巻二・館蔵）
- 37 .. 軒丸瓦Ⅲ型式（美作国分寺跡出土・市教委蔵）
- 38 .. 御用日記（個人蔵）
- 39 .. 狩野洞学筆 竹林七賢図屏風（6曲1隻・館蔵）
- 40 .. 顎部施文軒平瓦（津山市勅使遺跡出土・館蔵）
- 41 .. 津山松平藩町奉行日記（寛政4年・館蔵）
- 42 .. 津山景観図屏風（鋏形蕙斎筆・江戸時代後期・個人蔵）
- 43 .. 美作国分寺跡軒丸瓦ⅠA（当館保管）
- 44 .. 町奉行勤向心得（愛山文庫・館蔵）
- 45 .. 池田利隆宛森忠政書状（個人蔵）
- 46 .. 院庄碑（貞享5年）
- 47 .. 津山城下町町人地家割図（個人蔵）
- 48 .. 鍾馗図（狩野如林乗信筆・江戸時代・個人蔵）
- 49 .. 彫書水月一如（彫無季作・館蔵）
- 50 .. 津山景観図屏風（右隻部分・鋏形蕙斎筆・個人蔵）
- 51 .. 森忠政書状（個人蔵）
- 52 .. 寺領寄進状（正応4年6月・万福寺蔵）

- 53…米中買人数附(玉置家文庫・館蔵)
- 54…葵紋付簾(江戸時代)
- 55…大谷碧雲居(津山市山北出身・本名「浩」)
- 56…当館所蔵「西東三鬼文庫」について(佐野綱由)
- 57…大年寄座右手鑑、宿切手(玉置家文庫・館蔵)
- 59…『溪流』赤松麟作
- 60…伝・岡高塚古墳出土の筒型銅器
- 61…昭和9年9月21日 今津屋橋流出(写真提供…森永貞朝氏)
- 64…古写真紹介(失われた津山を求めて 藪田川旧三枚橋と賽神社)
旧備前往来「富川宿(津山)村境」(佐野綱由)
- 71…天保山諸家警備之図(梶村明慶)
- 72…西東三鬼遺品の硯(梶村明慶)
- 73…元禄美作国切図(小島徹)
- 74…中村家寄贈資料(杉井万里子)
- 77…西東三鬼に関する資料と津山市内の小字図
- 81…作事所作成の津山城御殿絵図ほか(東万里子)
- 83…安東次男の自筆原稿(梶村明慶)
- 84…田外白鷺の四国一周旅行記(東万里子)
- 85…佐平焼の置物―ライオン型―(東万里子)
…永礼孝二「ロシア人形(女)」・「小諸城跡」(梶村明慶)
- 86…手押し消防ポンプ(梶村明慶)
- 87…牧家文書(梶村明慶)
- 88…天正二年(一五七四) 浦上宗景書状(梶村明慶)
…寛政十二年(一八〇〇) 郷中諸割賦建方定書大意(東万里子)
- 89…大年寄廃止の書状(梶村明慶)
- 90…ビール冷やし(梶村明慶)
- 93…旧大庄屋の士族編入願(梶村明慶)
- 95…津山藩士丸尾元意の江戸下向道中記録(小島徹)
- 96…河井達海(一九〇五―一九九六)の油彩画(東万里子)
- 97…鷺田重郎が油彩で描いた古民家の数々(小島徹)
- 99…京都御屋鋪御買上ケ証文(梶村明慶)
- その他(館長随筆・特別寄稿など)**
- 3…神尾斉 「業平東下図」にみる富士
- …安藤治 博物館閑話「棚田暁山『武将出陣図』の正体は？」
- 4…安藤治 博物館閑話「『はた商い』はご禁制」
- 54…佐野綱由 安東次男の△古典評釈▽
- 62…加田誓子 久原濤子のブロンズ像をめぐる
…乾康二 津山と進駐軍
…佐野綱由 館長随筆
- 「津山市上之町・出隆、神伝流、平沼のよっさん、その他」
…乾康二 5分でわかる津山の歴史②「おおむかしのへんな生き物？」
「むかしむかし、津山は海でした。」
- 65…乾康二 5分でわかる津山の歴史②「おおむかしのへんな生き物？」
- 67…梶村明慶 なかなか自主独立できなかった美作国
- 75…杉井万里子 博物館のしごと「資料の補修」
- 92…兵庫教育大学 吉國秀人 「津山藩松平家の大名行列図」の巨大絵巻を
授業で活用してみませんか？(特別寄稿)

30年間の
博物館の歴史が
詰まっているね。



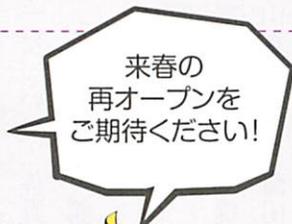
博物館キャラクター
つばねのすけ
「津郷之介」

調査・研究のための資料閲覧の中止について

現在、津山郷土博物館は耐震改修工事のため休館中ですが、調査・研究等のための資料閲覧については対応させていただいていました。しかし、工事の本格化にともない、資料の閲覧につきましては、令和2年4月（予定）の再オープンまで中止させていただきます。利用者の皆様にはご迷惑をおかけいたしますが、ご理解いただきすよう、よろしくお願いいたします。



博物館キャラクター
「ファイアー」

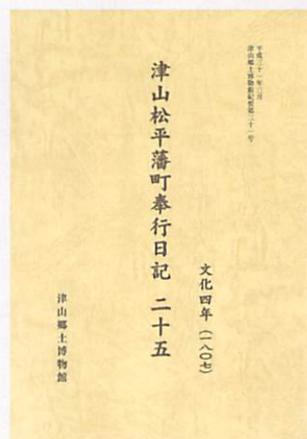


博物館キャラクター
お
「パレ夫」

新刊のご案内

「津山松平藩町奉行日記25」
（文化4年）を刊行しました。

頒布価格800円



令和元年度 津山郷土博物館 行事予定

広報活動

- ◆博物館だより「津博」の発行
No.100／5月 No.101／7月
No.102／10月 No.103／来年1月

出版

- ◆「津山松平藩町奉行日記26」翻刻出版
- ◆平成30年度年報の刊行

教育普及活動

- ◆古文書講座
5月25日(木)・6月19日(水)・7月25日(木)
9月17日(火)

※夏休み子供歴史教室は、今年度は中止します。

文化財めぐり

- ◆5月25日(土)・11月16日(土)・3月14日(土)



博物館だより「つはく」
No.100 令和元年5月1日



【編集・発行】 津山郷土博物館
〒708-0022 岡山県津山市山下92
Tel (0868) 22-4567 Fax (0868) 23-9874
E-mail tsu-haku@tvt.ne.jp

【印刷】 有限会社 弘文社

只今

耐震改修工事のため
休館中！

再オープンは
令和2年4月（予定）